

組立基準

支保工の組立においては指定の部材を使用し、その使用部材を指定された方法で強固に結合するものとする。

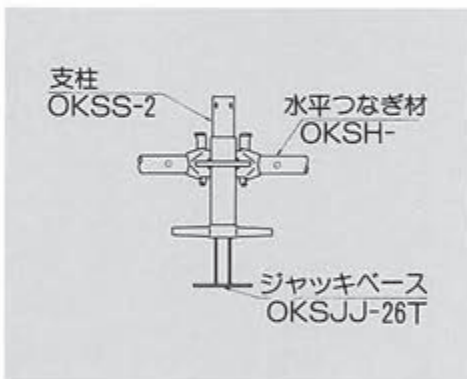
1 支柱間隔

ベタ支柱式、及び四角塔の支柱間隔は1,829mm以下とする。

2 ジャッキベース等

支柱の最下部に支柱OKSS-2を、さらにその下端にジャッキベースを使用し、各支柱のレベルを正確にそろえるものとする。

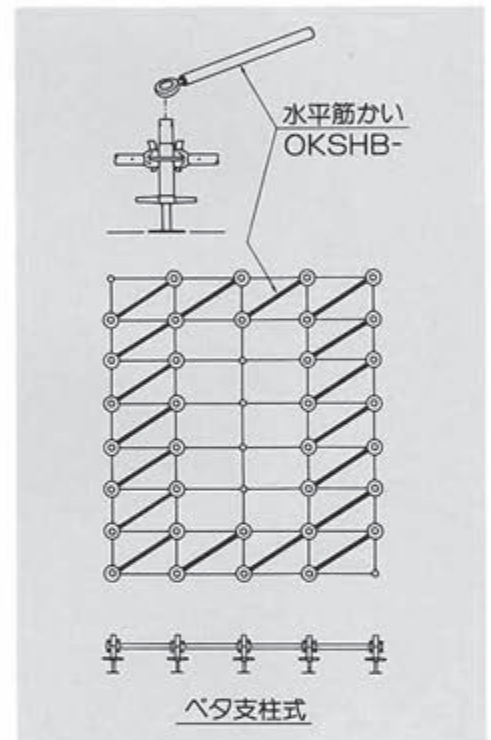
また、組立後ジャッキベースのハンドルに遊びのないことを確認すること。



3 水平筋かい

ベタ支柱式の場合、外周の各スパンには、前項のOKSS-2に水平筋かいを設けるものとする。

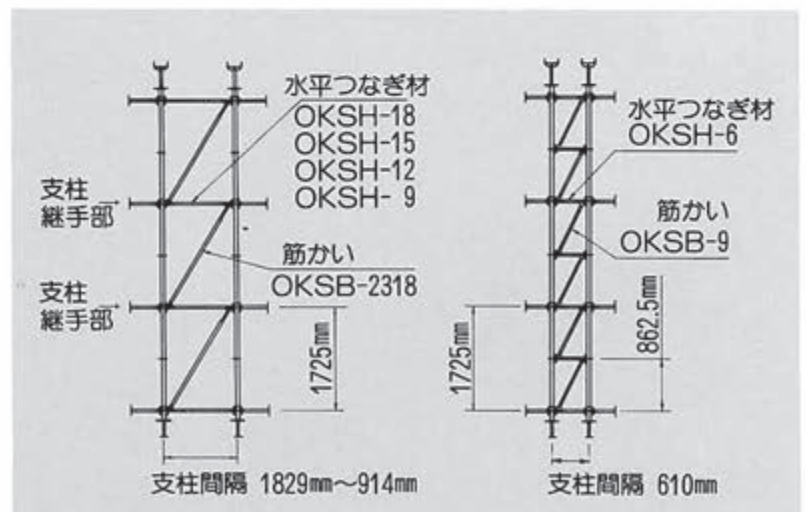
また、四角塔式の場合は、前項のOKSS-2、及び水平変位を拘束するレベルに水平筋かいを設けるものとする。



4 水平つなぎ材の垂直間隔

水平つなぎ材は支柱の下端(OKSS-2)及び垂直間隔1,725mm以下毎、かつ支柱の継手部付近に設けるものとする。

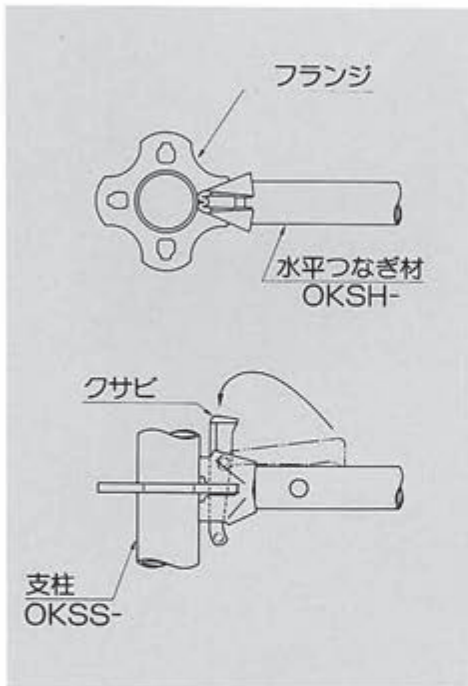
但し、支柱間隔610mmで筋かいを取り付ける場合は水平つなぎ材間隔を862.5mmとする。



組立基準

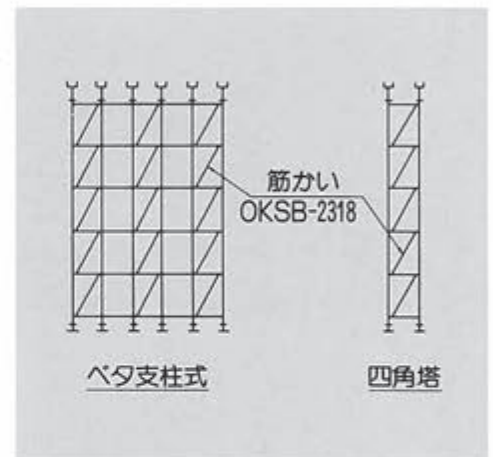
5 水平つなぎ材の取り付け

水平つなぎ材の取り付けは、水平つなぎ材両端のクサビが支柱のフランジの正しい位置に納まっていることを確認した後、ガタがないようにクサビを十分に打ち込むものとする。



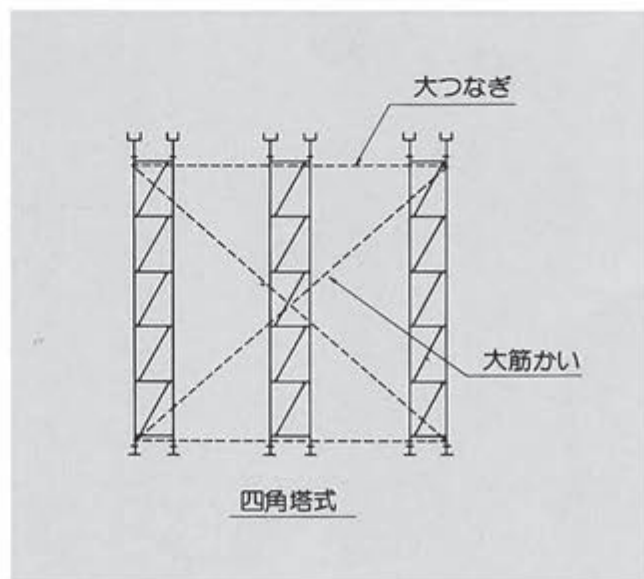
6 筋かい

ベタ支柱式の場合は各行、及び各例の構面内に「使用基準」の許容荷重に応じたスパン以下毎に、また四角塔の四構面には全高にわたって筋かいを取り付けるものとする。



7 水平変位の拘束

四角塔式の場合は、5層以下毎に大つなぎ、及び大筋かいを設ける等の方法により水平変位を拘束するものとする。

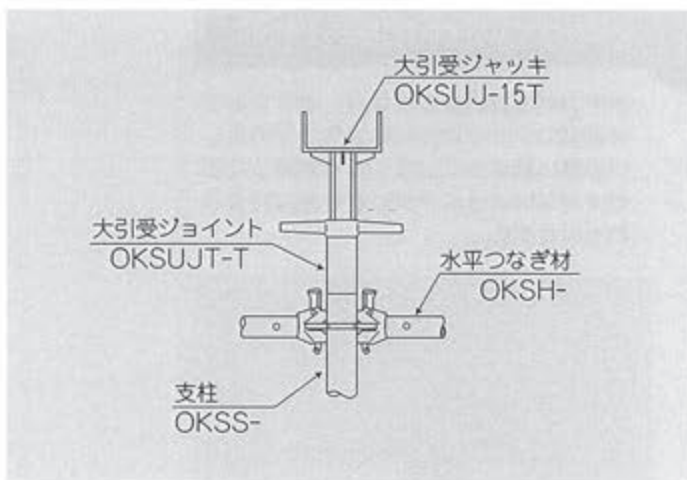


8

大引受ジャッキ等

支柱の上端には、高さ調節と解体時の応力解放のため、大引受ジャッキを使用し、その取付部には必ず大引受ジョイントを取り付けるものとする。

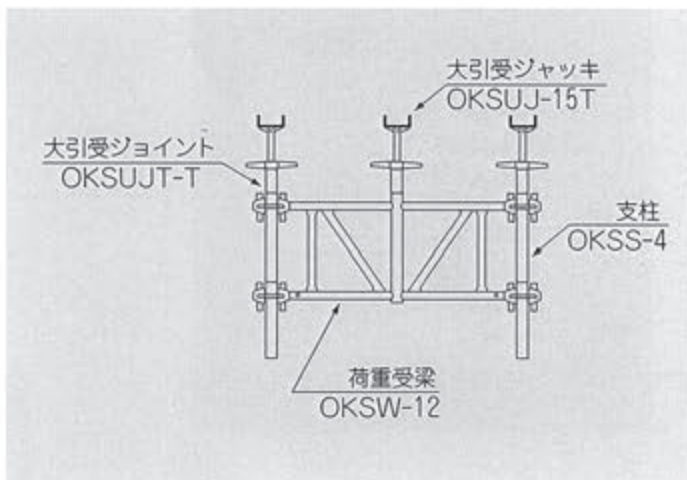
また、組立後大引受ジャッキのハンドルに遊びのないことを確認すること。



9

荷重受梁

荷重受梁を使用する場合はその取付け部に支柱OKSS-4を使用するものとする。荷重受梁の取付は、上下弦材両端のクサビが支柱のフランジの正しい位置に納まっていることを確認した後、ガタがないようクサビを十分に打ち込むものとする。



10

跳ね出しステージ

跳ね出しステージには横振れ防止のため水平方向に筋かいOKSHSB-22を、また、先端には単管(φ48.6)にてつなぎ材を設けるものとする。

跳ね出しステージの取付は、水平材、及び斜材下部のクサビが支柱のフランジの正しい位置に納まっていることを確認した後、ガタがないようなクサビを十分に打ち込むものとする。

